

12月度木曜例会（2017年12月7日）

A review of the numerous relations

between Japan and Switzerland

日本とスイスの数えきれない多くの絆

元在大阪スイス総領事

Mr. Daniel P. ^{ダニエル ペ} ^{アヴィオラ} Aviolat (Switzerland)

日本とスイスは幕末以来、150年以上にわたって友好関係を深めながら互いに発展してきました。そんな伝統的な絆を支える活動を続けているスイス人の一人、元在大阪スイス総領事、ダニエル ペ アヴィオラさん＝写真右＝が今回のゲスト・スピーカーです。経済、文化、建築、スポーツ、食べ物、勤勉な国民性など多岐にわたる両国の長く、地道な交流や共通点について語っていただきました。以下は要点です。



パリのエッフェル塔、北京五輪のメインスタジアム（鳥の巣と呼ばれた）、米国の金門橋やニューヨークのいくつかの橋がスイス人によって設計されている。日本では、東京の国立西洋美術館はスイス生まれでフランスを中心に活躍した世界的建築家ル・コルビジエの設計によるものだ。関西人の安藤忠雄はコルビジエの影響を受けている。一方、日本人建築家もスイスのいくつかの著名な建物の設計をしている。

スイス人は豊臣秀吉の桃山時代から日本についての知識を得た。日本から遣欧使節団がヨーロッパにやってきて、それについての本が出版されていたからだ。実際に交流がスタートしたのは江戸時代末期の1864年（修好通商条約締結）から。したがって、両国の外交関係は153年に及ぶ。

ペリーの黒船来航後、日本が開国したとの知らせを受けて、スイスは交易を求めて早くも使節団を日本に派遣している。日本はスイスと国同士の通商関係を結んだアジアで最初の国になった。

スイスの領事館がまず、横浜、長崎、函館に設けられ、明治がスタートして2年後の1870

年に大阪に領事館が開かれた。東京の開設は 1906 年で大阪より 36 年も後だった。スイス人は、このころから日本人は勤勉でインテリジェントな国民と思っていた。



ユングフラウ

ように古い街並みを大切に保存している。

現在、バーゼル、ジュネーブ、ベルンなどには日本の会社が事務所を構えている。スイスの首都はベルンで、旧市街の全域がユネスコの世界遺産になっている。ベルンでは家の内装は変えられるが外装は変えず、何百年にわたって普通の美しいたたずまいを見せているからだ。「ぜひ、訪れてほしい」とアヴィオラさんは勧めました。スイスではたいていの市が同じ

スイスの特徴の一つは国際的な機関の本部や事務所が 200 から 300 もあること。もちろん、ジェトロ（日本貿易振興機構）も含まれる。

スイスで最も古い産業は織物業であり、明治元年（1868 年）、スイスのビジネスマンが神戸と大阪にやってきて、2 年後には 3 台の自動織機をもたらした。これがきっかけで、日本の織物業は大きく発展し、やがて大阪は欧州から「東洋のマンチェスター」と呼ばれるほどに織物・繊維業を発展させた。

1888 年にスイスで設立されたネスレ（日本ではネスル）はネスカフェを作った最初の会社で、今やドリンクとフードの分野で世界一の巨大企業。ネスレ日本の本社は神戸にあり、ここで初めてコンデンスミルクが製造された。

相互理解と利益のために両国のトップや大臣、経済人らが訪問し合い、地道に関係を深めていった。レマン湖のほとりはスイスワインの生産地で、昭和天皇など一部の皇族の方々も愛飲されているという。ロシュ、ノバルティス、日本チバガイギーなど製薬、バイオ、化学の世界的大企業の本社・親会社がスイス北部のバーゼルにあり、スイス製品の 60% がライン川を経てオランダのロッテルダムへ運ばれ、世界に輸出されている。

バーゼルは 3000 年の歴史を持ちカーニバルでも有名。アヴィオラさんはカーニバルのメンバーに呼びかけ、大阪の御堂筋パレードにも参加してもらった。大変、歓迎され、喜ばれたという。

投資や貿易の面でもスイスと日本は良きパートナー。スイス企業は 6 万人の日本人を雇用し、日本企業も約 200 社がスイスに進出している。スイスは日本から車、エレクトロニクス製品などを買い、日本はスイスから機械、医薬品、もちろん、時計などを買っている。日本はスイスに多くのものを売っているが、同時にスイス製品が好きで、買うものも多いので貿易バランスはスイスが有利になっている。

ただ、旅行についてはバランスが取れていない。毎年、日本から 50 万人ほどがスイスを訪れる。しかし、その逆のスイスから日本へは少ない。スイス人は団体ではなく、家族か個人で旅行することが多いし、レンタカーでの旅行を好むが、日本の交通標識など表示の類がむずかしい。お金の換金も複雑で時間がかかる、フィリピンやベトナムなどでの手続きは早くて簡単だ。日本は美しさと伝統のある国で、外国人を引き付けるものをたくさん持っている。わかりやすさと簡略さがより、求められると思う。スイス人観光客が少ないのは、以上のようなことが原因のようだ。「日本語はむずかしいですから」とアヴィオラさん。

ちなみに、スイスの公用語はドイツ語、フランス語、イタリア語、それにロマンシュ語。街ではこれら 4 か国語の新聞が売られている。面積は九州ほどで人口は約 800 万人。

日本の食料自給率はわずか 39%。61%もの食料を輸入に頼っているのは危険すぎる。日本で米が十分、育たなくなり、スイスアルプスの草原がなくなったら、どうなるか。日本



絵のようなベルンの街並み

とスイスはともに、温暖化、食糧問題など国際的な多くのテーマで共通することが多く、協力し合ってきた。また、途上国援助も積極的に行っている。

地球の人口が増え続

け、汚染が心配される。温暖化対策の枠組みを決めたパリ協定にサインしなかったのは 3 か国だけだが、後にシリア、ニカラグアが批准の意思を表明し、アメリカだけが孤立している。

日本の汚染対策は素晴らしい。私が副領事時代、神戸から大阪のオフィスへ通っていたころは沿線に工場が立ち並び、大気汚染がひどかった。しかし、今では、汚染は非常に減少している。

このころ、アヴィオラさんは高野山を訪れて公害とは正反対のその静寂、荘厳さを知って魅かれ、すでに 100 回以上訪れている。「高野山 addict と言われました」という。

映画では、日本のプロデューサーの名前はスイス人によく知られ、尊敬されている。文学では三島由紀夫、松尾芭蕉、村上春樹などが有名。

「二人のスイス出身の作家・思想家、ジャン・ジャック・ルソーとカール・ヒルティエが封建時代末期の日本の若い侍に大きな影響を与えた、と聞いて驚いた。カール・ヒルティエと日本とのかわりを私は知らなかったの…」とアヴィオラさん。黒船来航以来、尊王攘夷か開国かという日本の混乱の中で、2 人のスイス出身者による自由と民主主義の思想が一部の侍たちを強く引き付けていた。ルソーはジュネーブ出身で“フランス革命の父”とも

言われる人物。

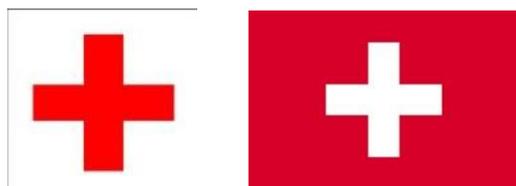
スイスの児童文学者、ヨハンナ・シュピーリによるアルプスの少女、ハイジの物語は日本でも人気が高く、「ハイジ村」があって日本人旅行者の多くが訪れている。

音楽とのつながりでは NHK のオーケストラ指揮者にスイス人がいる。小澤征爾はスイスでもオーケストラの指揮をしている。

食に関しても両国の関係は深く、スイスには日本料理店がたくさんあり、逆も同様。寿司はスイスでも人気が高い。スイス・フード・フェスティバルが開かれ、そこで日本人が写真を撮るときは「はい、チーズとは言わず、ハイ、スイスチーズ」というそうだ。

両国の間では多くの姉妹都市提携がある。アルプスのユングフラウと富士山は姉妹山の関係にある。

ジュネーブ生まれのデュナンが創始した赤十字のマーク＝写真左＝はスイス国旗＝同右＝の色を反転したものと言われる。



このほか、京都に孤児院を作って孤児たちを助け、天皇陛下から最高位の勲章を受けた人、精神病を病む人を日本では隠す傾向があったが、「彼らは誇るべき家族の一員」と説き、多

くの本を出版し、障害者をケアする数百人の人材を育てた（ともにスイス人）の紹介など盛りだくさんの話がありました。

スイスはもともと、貧しい国でフランスやイギリス王国に傭兵を出して出稼ぎしていた。現在は終わっているが、昔の名残でヴァチカン宮殿には今も美しいコスチュームを着たスイス兵が警護に当たっている。

朝鮮戦争による南北分断後、スイス兵が停戦協定を守るため板門店の警備にあたっている。

アヴィオラさんはスピーチの合間に、岩田英憲によるパン・フルートと、松本太郎の尺八による共演の演奏曲（CD）などを流しました。美しく癒しを感じさせる曲で本人も「大好きです」と話していました。

写真はフリー画像から。例会会場は茨木市福祉文化会館。